

令和6(2024)年度
名古屋市立大学大学院
医学研究科博士課程
(4月入学)学生募集要項
(社会人入学を含む)

入学者選抜は、年2回実施する。1回目は令和5年8月、2回目は令和6年1月。

名古屋市立大学大学院アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

【医学研究科 博士課程】

《求める学生像》

- ・将来の医学研究をリードする国際的医学研究者を志す人
- ・高度最先端医療を創出し、実施する医療人を志す人

《修得しておくべき知識の内容・水準》

欧文論文読解と作成のための英語能力に加えて、医学・医科生命科学研究遂行に必要となる理系大学学部、あるいは大学院修士課程修了レベルの生命科学・基礎医学知識を有すること、または高度最先端医療の実践を目指しうる基礎的医療技術と知識・経験を有すること。

1 募集人員 (4月入学者と10月入学者の合計数)

| | | | |
|---------------|-----|-------------|-----|
| 生体機能・構造医学専攻 | 32名 | 生体防御・総合医学専攻 | 32名 |
| 生体情報・機能制御医学専攻 | 28名 | 予防・社会医学専攻 | 8名 |

※本学大学院医学研究科では、社会人(研究所・病院・企業・官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者)が最新の医学・医療の知識を学び、より高度な研究の能力と技術を身につけて、社会に貢献することを期待して、昼夜開講制により、授業を夜間に行なうカリキュラムを実施しています。

(注1) 志願者は出願に先立ち、事前に指導を希望する教員に相談してください。

(注2) 研究テーマによっては、医師免許を必要とする科目もあるので、事前に指導を希望する教員に相談してください。

2 出願資格

- (1) 医学、歯学、薬学又は獣医学(薬学及び獣医学は修業年限6年に限る。)の課程を修了し、大学を卒業した者又は令和6年3月までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者又は令和6年3月までに修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者又は令和6年3月までに修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和6年3月までに修了見込みの者

- (5) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が5年以上である課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて(4)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和6年3月までに授与見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- ア 防衛省設置法(昭和29年法律第164号)による防衛医科大学校を卒業した者及び令和6年3月までに卒業見込みの者
- イ 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者で、医学研究科において、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの
- ウ 大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を除く。)を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、医学研究科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの
- (7) 大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学し、又は外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了し、医学研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者
- (8) 医学研究科において、個別の入学資格審査により、(1)に定める者と同等以上の学力があると認めた者で、令和6年3月31日までに24歳に達するもの

3 資格審査(出願資格(6)イ、ウ、(7)及び(8)により出願する場合)

(1) 資格審査申請期間

1回目 令和5年 6月12日(月)～ 6月19日(月)〔必着〕
 2回目 令和5年11月 6日(月)～11月13日(月)〔必着〕

封筒の表に「医学研究科博士課程(4月 / 10月入学)資格審査書類在中」と朱書し、下記(2)の書類を必ず書留速達で郵送してください。郵送先は、2ページ「出願・入学等に関する照会先」を参照してください。

※窓口受付は行いません。また、期間内に到着しなかった場合は、受理しません。(消印有効ではありませんので注意してください。)

※国外から申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続を行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。(外国からの申請による出願は受け付けませんので注意してください。)

(2) 申請書類

「5 出願書類等」の(注1)～(注5)を参照

※個別資格審査願、履歴書、業績書は下記 URL からダウンロードすることができます。

本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/med/index.html>

(3) 審査結果

審査後、速やかに通知します。

出願・入学等に関する照会先

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

名古屋市立大学学生課入試係 医学研究科入試担当

電話 052(853)8020

FAX 052(841)7428

E-mail shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp

4 出願期間

1回目 令和5年 7月 5日(水) ～ 7月12日(水) [必着]

2回目 令和5年11月30日(木) ～ 12月7日(木) [必着]

※郵送に限ります。窓口受付は行いません。

必要事項を記入した出願書類提出用封筒の表紙<本学指定>を角型2号の封筒(ご自身でご準備ください)に貼り付け、その封筒に出願書類を入れ、書留速達で郵送してください。期限までに到着しなかった場合は受理しません。(期間内消印有効ではないので注意してください。)

国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続きを行ってください。国外からの郵送による出願は認められません。本学からの通知も代理人あてに行きます。

出願書類を受理したときは、受験票と受験案内を後日送付します。1回目:7月25日(火)、2回目:12月20日(水)を過ぎても届かない場合は、[学生課入試係医学研究科入試担当(2ページ)]に照会してください。

5 出願書類等

| 書 類 等 | | 摘 要 |
|-------|----------------------|---|
| 1 | 入学願書 照合写真票 受験票 | [本学所定用紙使用] ・写真は、上半身、無帽、正面向き、背景なし、カラー、出願前3か月以内に撮影したものを貼ってください。(縦4cm×横3cm) ・受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。 |
| 2 | 履 歴 書 | [本学所定用紙使用] ・学歴は、大学入学から記入してください。 ・出願資格(2)、(3)により出願する者、(5)、(6)ウ及び(7)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、初等教育(小学校入学)から高等教育(大学相当)まで、修了した学校教育をすべて記入してください。 ・出願資格(8)により出願する者は、中学卒業以後から記入してください。 ・職歴があれば記入してください。 |
| 3 | 成績証明書 | ・在籍又は出身大学が作成したものです。 但し、本学医学部卒業(見込)者は、提出の必要はありません。 ・出願資格(2)、(3)により出願する者、(5)、(6)ウ及び(7)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、外国において修了した高等教育機関(大学相当)の成績証明書を提出してください。 ・コピーは不可。※注7 ・日本語又は英語により作成するか、日本語又は英語による訳文を添付してください。 証明書に直接書き込まないでください。 |
| 4 | 卒業証明書 (卒業見込証明書) | ・在籍又は出身大学が作成したものです。 ・出願資格(2)、(3)により出願する者、(5)、(6)ウ及び(7)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、外国において修了した高等教育機関(大学相当)の卒業証明書を提出してください。 ・コピーは不可。※注7 ・日本語又は英語により作成するか、日本語又は英語による訳文を添付してください。 証明書に直接書き込まないでください。 |
| 5 | 受験許可書 | [本学所定用紙使用] ・現に在職中の者は、所属長の受験許可が必要です。 ・但し、本学医学研究科・附属病院在職者は提出の必要はありません。 |
| 6 | 住民票 (外国籍の者のみ) | ・外国籍の者で在留資格がある者は提出してください。 ・在留資格期間が短期の者はパスポートに押された日本の査証の写しを提出してください。 ・国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出してください。 |

| | | |
|---|----------------------|--|
| 7 | 入学検定料等 (30, 344円) | <p>【日本国内から検定料等を納入する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学検定料は、振込依頼書(本学所定のもの)を使用し、必要事項を記入のうえ、30, 344円(入学検定料30, 000円+受験票等送付のための速達郵便料金344円を添えて銀行などで振り込んでください。(ゆうちょ銀行では取り扱いません。また、ATM等は使わず必ず窓口で振り込んでください。) ・振込手数料は志願者本人の負担となります。 ・銀行などから受け取った「検定料納付証明書(B票)」を他の出願書類と一緒に提出してください。(「振込金(兼手数料)受領書(A票)」志願者が保管するものなので注意してください。) ・原則として既納の入学検定料は返還しません。但し、以下の場合は、納入された入学検定料を返還しますので、本学ウェブサイトをご覧ください。ご不明な点がありましたら、[学生課入試係医学研究科入試担当(2ページ)]へお問合せください。 ・二重で振込みをした場合 ・入学検定料等の振込後、出願書類を提出しなかった場合(出願が受理されなかった場合も含む) <p>【日本国外から検定料等を納入する場合】</p> <p>出願者氏名により電信送金で出願期間締切日の1回目:令和5年7月12日(水)、2回目:令和5年12月7日(木)までに下記の口座へ到着するように送金してください。また、銀行で発行された受領書(外国送金証明書)のコピーを他の出願書類とともに提出してください。【振込方法】</p> <p>送金種別: 電信送金 支払方法: 銀行振込 送金額: 30, 344円+手数料 ※</p> <p>※送金時に必要な手数料(振込銀行手数料(海外銀行分)と支払銀行手数料(日本国内銀行分)の両方。途中経由銀行の手数料がかかる場合もあり。)は、すべて志願者が負担してください。</p> <p>※必ず日本円で送金してください。日本円以外の外貨で送金した場合、出願を認めません。</p> <p>【振込口座】</p> <p>銀行名: 三菱UFJ銀行(The Bank of Mitsubishi UFJ,Ltd.) 支店名: 滝子支店(Takiko Branch) 口座番号: 1232518 受取人: 公立大学法人名古屋市立大学(Nagoya City University) 受取人住所: 〒467-8601 愛知県名古屋市長区瑞穂区瑞穂町字川澄1 (1 Kawasumi,Mizuho-cho,Mizuho-ku,Nagoya-shi,Aichi 467-8601 JAPAN) SWIFTコード: BOTKJPJT</p> |
| 8 | あて名用シール | <p>[本学所定用紙使用]</p> <p>返信先を明記してください。受験票等の送付及び合否の通知に使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。</p> |
| 9 | 出願書類提出用封筒 | <p>出願書類提出用封筒の表紙<本学所定>に必要事項を記入してください。自身で用意した角型2号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課入試係宛に郵送してください。</p> |

(注1) 出願資格(6)のイにより出願する者

→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、大学院の成績証明書及び修了証明書を提出してください。

(注2) 出願資格(6)のウにより出願する者

→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、卒業証明書及び成績証明書、研究に従事した証明書、業績書(所定様式)を提出してください。

- (注3) 出願資格(7)の「大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学した者」により出願する者
→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、成績証明書、大学の履修規程、授業シラバスを提出してください。
- (注4) 出願資格(7)の「外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者」により出願する者
→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、卒業証明書及び成績証明書を提出してください。
- (注5) 出願資格(8)により出願する者
→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、中学以後の学校の卒業がある場合はその証明書(高校、短大、各種学校等)、研究業績目録を提出してください。
- (注6) 個別資格審査申請の際に、出願に必要な書類を既に提出している者は、出願の際に再度提出する必要はありません。
- (注7) 外国の高等教育機関で発行された卒業証明書・成績証明書等のうち、再発行ができないものについては、コピーの提出を認めます。なお、コピーを提出した場合は、入学手続の際に原本を確認します。
- (注8) 成績証明書、卒業証明書等に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出してください。
- (注9) 履歴書、受験許可書は、下記 URL からダウンロードすることができます。
本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/med/index.html>

6 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前までに必ず〔学生課入試係医学研究科入試担当(2ページ)〕まで申し出てください。

7 入学者選抜期日及び方法等

| 試験期日 | 試験時間 | 試験科目 | 試験会場 |
|-----------------------------|------------------|-------------------------------------|--------------------------|
| 《 1回目 》 令和5年 8月1日(火) | 13:00 ~ 15:00 | 医学・生物学一般(筆答) | 医学研究科 研究棟 11階 講義室A |
| 《 2回目 》 令和6年 1月17日(水) | 15:30 ~ 17:00 | 外国語(英語一筆答) 辞書の持込みを認めます。(電子辞書は不可) | 医学研究科 研究棟 11階 講義室A |
| | 17:30 ~ | 専門科目(口答) 志望専門科目(研究内容一覧参照) | 志望専門科目 教官室 |

受験者は、12時45分までに試験会場(医学研究科研究棟11階 講義室A)に集合してください。

8 合格発表

1回目:令和5年9月4日(月) 14:00
2回目:令和6年2月9日(金) 14:00

名古屋市立大学医学研究科研究棟1階掲示板において合格者を発表するとともに、本人あて可否を通知します。(合格発表日から1週間が経っても通知が届かない場合は、〔学生課入試係医学研究科入試担当(2ページ)〕に問い合わせてください。)

9 入学手続

(1) 手続期日(予定)

1回目:令和5年9月中旬

2回目:令和6年3月上旬

具体的な日時は合格通知に併せてお知らせします。

(2) 手続方法
合格通知に合わせて詳細を通知します。

(3) 入学手続時に必要な経費

| | | |
|-----------------|---------|----------|
| ア 入学料 | 名古屋市住民等 | 232,000円 |
| | その他の者 | 332,000円 |
| イ 学生教育研究災害傷害保険料 | | 3,300円 |

注1 入学料等は入学手続時までに金融機関で納入してください。既納の納付金は返還しません。

注2 名古屋市住民等とは、①入学者 又は ②配偶者若しくは1親等の親族が、入学の日において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

注3 上記は、令和5年度4月入学者の金額です。令和6年度入学者については、改めてお知らせします。

10 授業料

年額 535,800円 (前期・後期分 各267,900円)

注1 授業料は、入学後、年2回(前期・後期)に分けて納付してください。(口座引落)

注2 授業料は、令和5年度入学者の金額です。令和6年度入学者については、改めてお知らせします。

また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用します。

注3 必要な諸経費については別途徴収することがあります。

11 授業料免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合には審査のうえ、授業料の全額または半額、もしくは4分の1の額が免除されます。

詳しくは、学生課学生支援係(052-872-5042)へお尋ねください。

12 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

希望者については本学において、学業成績及び研究能力等を審査のうえ推薦手続をとります。

13 注意事項

(1) 出願書類等が不備の場合は受理しません。

(2) 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。

(3) 出願書類等は返還しません。

(4) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課入試係医学研究科入試担当(2ページ)〕に連絡してください。

(5) 二重学籍は原則禁止します。

14 大学院設置基準第14条による教育方法の特例(昼夜開講制)

本学大学院医学研究科では、平成16年度より昼夜開講制を導入し、授業及び研究指導を夜間や特定の時間又は時期に受けることができます。

15 連携大学院

連携大学院とは、学外における高度な研究水準をもつ国公立や民間等の研究所の施設・設備、人的資源を活用して大学院教育を行う方法であり、本学大学院医学研究科では、国立がんセンター、国立感染症研究所及び国立国際医療研究センターと連携の協定を締結しています。

緊急時における大学からのお知らせについて

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイトにより周知しますので、受験前は特に注意してください。

また、受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を書くようにしてください。

○本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

個人情報の取扱い

個人情報については、名古屋市個人情報保護条例に基づいて、次のとおり取り扱います。

(1) 個人情報の利用

ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務（出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等）を行うために使用します。

イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を今後の入学者選抜及び大学院教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。（調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。）

ウ 入学者の個人情報については、教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

(2) 業者への委託

上記（1）の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがあります。

敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにもこの方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいています。

専門分野研究内容一覧

| 専攻 | 講座名 | 専門分野名 担当教員名 | 研究内容 |
|------|-------|-----------------------|---|
| 基礎医学 | 基礎医学 | 統合解剖学 植木 孝俊 教授 | (1) 筋萎縮性側索硬化症(ALS)を初めとする神経変性疾患の病態生理に、ニューロン・グリア関連の破綻が与える分子原理を解明する。 (2) 神経免疫系の恒常性維持の分子神経生物学的研究と、その維持機構の障害が、自閉症等の発達障害を惹起する分子病理の解明。 |
| | | 機能組織学 鵜川 真也 教授 | 感覚器と脳の両方面でシームレスな研究を展開 (1) 聴覚・味覚受容に関する遺伝子の同定と遺伝子改変動物を用いた機能解析 (2) 成体脳海馬の新生神経に関する形態学的・分子生物学的・生理学的研究 |
| | | 神経生化学 (未定) | (未定) |
| | | 細胞生化学 加藤 洋一 教授 | 繊毛は細胞外に突出したアンテナ状の細胞小器官で、様々な疾患との関わりが知られている。我々の研究室では以下の研究テーマに焦点を当てている。(1) 繊毛形成の制御機序の解明 (2) 繊毛によるシグナル伝達の制御機序の解明 (3) 繊毛病の病態機序の解明 (4) 様々な疾患における繊毛の役割の解明(悪性腫瘍、不育症など) |
| | | 細胞生理学 橋谷 光 教授 | 平滑筋およびその周辺細胞に関する機能的、形態学的研究 (1) 平滑筋自発活動の発生伝播機構 (2) 平滑筋機能の神経性、液性制御機構 (3) 内臓組織における微小血管の機能特性 主要実験方法:電気生理学的手法、細胞内カルシウムイメージング法および蛍光免疫染色法 |
| | | 脳神経生理学 飛田 秀樹 教授 | 神経科学&神経生理学的手法を駆使し、病態生理学的な視点のアプローチから3つのプロジェクトの研究を実施し、脳神経系の生理機能の解明にアプローチしています。(1) リハビリテーションによる脳内出血後の前肢運動機能の回復メカニズムの解析 (2) 新生仔白質損傷モデルへの幹細胞(ES細胞/iPS細胞)移植による機能回復のメカニズム解析 (3) うま味摂取により起動する腸-脳相関による情動形成メカニズムの解析 |
| | | 消化器外科学 瀧口 修司 教授 | 臨床応用を目的とした消化器癌の増殖, 浸潤, 転移, 血管新生に関する分子生物学的メカニズムの解明. 癌と炎症. 栄養治療による炎症反応の修飾機構の解明. 内視鏡手術の手術術式の開発. 癌の免疫・化学療法. 周術期外科感染症. |
| | 病態外科学 | 呼吸器・小児外科学 奥田 勝裕 教授 | 肺癌や胸腺上皮性腫瘍などの胸部悪性腫瘍に対する外科的・分子標的治療に関する研究。特に、胸部悪性腫瘍に対する低侵襲手術の臨床的および科学的有用性に焦点を当てた研究。 |
| | | 腎・泌尿器科学 安井 孝周 教授 | 尿路結石の分子機構の解明、内視鏡外科、前立腺がんの病態と骨転移機構、がん選択的温熱療法、男子不妊症の病態究明と補助生殖技術、宇宙医学(特に尿路結石と生殖)、泌尿器科手術術式の開発、泌尿器分子生物学、先天性疾患の発生機序、遺伝子診断法・治療法の開発、排尿メカニズムの解明、泌尿器疾患のエピゲノム制御、ロボット工学、VR技術 |
| | | 心臓血管外科学 須田 久雄 教授 | 3D printing技術・VR(Virtual Reality)技術を利用した手術シミュレーション・トレーニング法の開発、医療関連機器開発を通じた社会実装(アントレプレナーシップ)の研究、抗動脈硬化・抗炎症作用を有する水素ガスの循環器疾患の治療への応用研究 |
| | | 乳腺外科学 遠山 竜也 教授 | ①乳癌のホルモン依存性増殖機構の解明に関する研究、②ホルモン療法効果予測因子に関する研究、③トリプルネガティブ乳癌に関する研究、④乳癌の予後予測因子に関する研究 |
| | | 小児泌尿器科学 林 祐太郎 教授 | 泌尿器科学のうち、特に小児・先天異常疾患の病態解明・診断・治療に関する基礎および臨床研究を展開 (1) 腎・尿路系:腎発生、ES/iPS細胞を用いた腎再生、CAKUT発症メカニズム、水腎症、VURにおける組織・遺伝子変化 (2) 性腺・性器系:性分化、精巣発生、精巣下降、精子形成、外生殖器形成に関する分子生物学的メカニズムの解明、精子幹細胞の分化・発生メカニズム、内分泌学的環境との相互作用 (3) その他:総排泄腔遺残など稀少疾患、小児悪性腫瘍 |
| | | 視覚科学 安川 力 教授 | 網膜硝子体疾患の病態解明の基礎研究、画像機器による診断・治療に関する臨床研究、AIの活用に関する研究 (1) 加齢黄斑変性の病態解明(脂質代謝メカニズム・マクロファージ・肥満細胞の役割の解析) (2) 眼科ドラッグデリバリーシステム(DDS)(眼内薬物徐放システム)の開発 (3) 細胞シートを用いた再生医療 (4) マルチモーダルイメージングによる網膜静脈閉塞症の病態解析 (5) ナビゲーションシステムを使った糖尿病黄斑浮腫の局所レーザー治療 (6) 眼科領域におけるAI支援画像機器の開発及びデータモニタリングシステムの開発 |
| | | 感覚器・形成医学 | |

専門分野研究内容一覧

| 専攻 | 講座名 | 専門分野名 担当教員名 | 研究内容 |
|---------------|----------|-------------------------|--|
| 生体機能・構造医学専攻 | 感覚器・形成医学 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 岩崎 真一 教授 | 1. 感音難聴 (DFNB93などの遺伝性難聴、カルシウムチャンネル病、auditory neuropathyなど)の病態解明と内耳カルシウムイオンの調節機構に着目した新規治療の開発 2. ウイルス性顔面神経麻痺のモデル動物を用いた顔面神経麻痺の分子機構の解明と新たな画像診断、ステロイドの効率的投与方法、安全な手術法の確立 3. めまい・平衡障害に対する新たな診断機器の開発とノイズ前庭電気刺激を利用した新規治療、新たな前庭リハビリテーションの開発 4. 頭頸部がんの免疫機構の解明と腫瘍溶解ウイルスによる新規治療の開発、生活習慣の罹患・予後への影響の解析 5. 発声障害の新たな客観的評価法の開発、痙攣性発声障害の病態解明と新たな喉頭形成術による治療の開発 |
| | | 加齢・環境皮膚科学 森田 明理 教授 | 難治性皮膚疾患に対する光線療法機の機序解析と開発、樹状細胞によるアレルギー疾患・自己免疫疾患・悪性腫瘍の治療、環境因子(タバコと紫外線)による皮膚老化の機序解析、皮膚免疫制御による末梢性トランスの誘導 |
| | | 口腔外科学 渋谷 恭之 教授 | 顎骨再生に関する基礎的・臨床的研究、口腔前癌病変の治療に関する基礎的・臨床的研究、インプラントによる治療法の開発、顎骨再建と口腔機能回復に関する基礎的・臨床的研究、口腔ケアに関する研究 |
| | | 形成外科学 鳥山 和宏 教授 | 創傷治癒遅延とその救済、脂肪幹細胞による軟部組織再建、リンパ浮腫とリンパ管再生 |
| 生体情報・機能制御医学専攻 | 病態医科学 | 実験病態病理学 高橋 智 教授 | 前立腺癌化学予防に関する実験病理学的研究、前立腺癌、乳癌、婦人科腫瘍、消化器疾患の発育・進展に関わる臨床病理学的解析、ギャップ結合タンパクから見た実験的肝発がん研究、健康食品を含む環境物質の発癌修飾作用およびその分子生物学的機構解明に関する研究、ヒト疾患モデル動物を用いた実験的腫瘍病理 |
| | | 臨床病態病理学 稲垣 宏 教授 | 病理診断は”最終診断”としてしばしば患者治療に決定的な影響を及ぼすが、われわれの教室では診断(人体)病理学に研究の基盤を置く。造血器、消化器、呼吸器、軟部組織、唾液腺、胸腺などの腫瘍および反応性病変を主な研究対象とし、病態発生機序の分子レベルでの解明および新たな疾患単位・概念の確立をめざす。また診断、最適治療法の選択、予後推定などに重要な分子マーカーを同定する。 |
| | | 病態モデル医学 大石 久史 教授 | ゲノム編集技術による遺伝子改変動物の作製と表現型解析を通じて、 (1)細胞膜タンパクの再利用経路が個体の初期発生や分化に与える影響を明らかにする。 (2)生殖加齢に伴うホルモンやエピゲノムの変化を明らかにして、妊よう率の向上を目指す。 ことに興味を持って研究を進めています。 |
| | | 薬理学 大矢 進 教授 | イオンチャンネルを免疫・炎症疾患、癌、骨疾患、循環器疾患の創薬標的分子として捉え、次のような研究を行っている。①免疫系・炎症性疾患における免疫細胞の機能変動とイオンチャンネル活性・発現制御 ②がん悪性化・がん免疫とイオンチャンネル活性・発現制御 ③骨関連疾患とイオンチャンネル活性・発現制御 ④心臓のメカトランスダクションにおけるイオンチャンネル活性制御 ⑤イオンチャンネル作用薬の開発 |
| | | 細菌学 長谷川 忠男 教授 | A群レンサ球菌などの病原細菌の感染症発症のメカニズム、細菌毒素蛋白質の機能・発現機構の解析、重症細菌感染症に対する新たな治療法の開発 |
| | | 免疫学 山崎 小百合 教授 | (1)樹状細胞、制御性T細胞を利用した免疫系の特異的制御法の研究 (2)(1)を利用した細胞療法の開発 (3)免疫寛容解除を利用した癌や感染症への免疫誘導の研究(4)新規分子標的免疫療法の開発 |
| | | ウイルス学 奥野 友介 教授 | (1) Epstein-Barrウイルス(EBV)関連がんの遺伝子解析と治療法開発 (2)慢性活動性EBウイルス感染症の原因解明 (3)新型コロナウイルス感染症の治療法開発 (4)希少疾患(小児がん、遺伝性造血不全症候群等)の原因解明と治療法開発 |
| 社会復帰医学 | | 整形外科 村上 英樹 教授 | 1)腰部脊柱管狭窄症における黄色靭帯の変性メカニズム、2)高悪性軟部腫瘍に対する温熱放射線化学療法、3)小児股関節疾患の病態、4)人工神経による末梢神経の再生、5)前十字靭帯(ACL)不全膝、並びにACL再建膝の動態、6)関節リウマチ(RA)発症機序、7)RAの薬物療法や手術療法による治療効果、8)肩肘投球障害に関する基礎および臨床研究、9)外傷性骨軟骨欠損に対する再生医療、10)大腿骨頭壊死の病態解明とそれに基づく治療法の開発 |
| | | 精神・認知・行動医学 明智 龍男 教授 | 気分障害・不安障害・心的外傷後ストレス障害・摂食障害・がん患者の認知行動療法・対人関係療法・デジタル技術を用いた治療開発研究。気分障害・統合失調症の家族介入・家族心理教育開発研究。発達障害・不登校児童・家族のQOL向上および介入方法の開発研究。難治性うつ病の治療最適化研究(mECT, TMSなど)。周産期を含めたコンサルテーションリゾン精神医学・精神腫瘍学・緩和医療学・てんかん学・学生メンタルヘルス・地域精神保健領域の研究も実施。 |

専門分野研究内容一覧

| 専攻 | 講座名 | 専門分野名 担当教員名 | 研究内容 |
|---------------|----------------------------|---|--|
| 生体情報・機能制御医学専攻 | 社会復帰医学 | 精神腫瘍学 (連携大学院) 内富 庸介 教授 | がん患者・市民参画による支持・緩和・心のケア開発、がんサバイバーや進行がん患者のケアプランに関する研究、共感的コミュニケーション研究、心理師・看護師・医師協働ケアに関する研究、高齢者のQOLと総合機能評価に関する研究、小児がん患者の家族支援に関する研究、がん医療に従事する医療スタッフの教育システムの開発研究、デジタルメンタルヘルスの実装科学研究、ビッグデータを用いたがん対策研究など |
| | | 脳神経外科学 間瀬 光人 教授 | 虚血性脳血管障害の外科、脳損傷修復の分子機構、クモ膜下出血、水頭症、頭蓋内圧亢進の病態に関する分子生物学的研究、頭蓋底外科、定位脳手術、脳血管内手術の新技术開発、パーキンソン病に対する外科療法の開発、びまん性脳損傷の病態解析と治療法の開発、幹細胞移植による神経機能回復法の開発、手術支援画像技術の開発、新しい機能的脳外科手術の開発導入 |
| | | リハビリテーション医学 植木 美乃 教授 | ① 非侵襲的計測法を用いた運動・認知機能評価、ニューロリハビリテーションの開発、② 股関節症術後の装着型サイボーグを用いた新規リハビリテーションシステムの開発 ③ パーキンソン病関連疾患におけるclosed loop stimultaionを用いた新規歩行リハビリテーション法の開発 ④AIを用いたリハビリテーション効果の予測・最適化 ⑤ 神経難病のリハビリテーション現状における全国調査 |
| | 生殖・遺伝医学 | 産科婦人科学 杉浦 真弓 教授 | 不育症病態解明、着床前診断、出生前診断胎児治療、周産期医学、生殖免疫、生殖補助技術、生殖器腫瘍発生機序、遺伝カウンセリング、エコロジー&チルドレンバースコホート研究 |
| | | 新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授 | 新生児中枢神経障害の成因解明と新しい治療法の開発、新しい新生児呼吸循環管理法、小児内分泌疾患の診断と治療、先天性心疾患の包括的管理、小児悪性腫瘍の診断と治療、小児肝疾患の発症機構、小児神経疾患の原因と病態解明、ゲノム医学を用いた小児疾患の病態解明、再生医療の小児医療への応用、発達障害の評価と介入方法の開発 |
| | | 認知症科学 齊藤 貴志 教授 | 認知症・アルツハイマー病および脳卒中の病態形成の分子機構の解明と予防・治療法の開発を目指して、病態モデルマウスを用いた生化学的・病理的・行動学的・薬理学的手法を中心に研究を展開している。特に、神経-グリア連関、脳-末梢連関および疾患連関に着目した細胞病態・分子機構の解明 |
| 生体防御・総合医学専攻 | 脳科学 | グリア細胞生物学 (未定) | (未定) |
| | | 神経発達症遺伝学 山川 和弘 教授 | 神経発達障害には、遺伝子の異常の寄与が大きいことが今までの研究によって明らかにされ、多くの原因遺伝子が同定されてきています。我々のグループでは、発達障害や知的障害、更にはそれに合併するてんかんの発症に関わる複数の原因遺伝子の同定、更にはモデル動物の作成や、それを用いた発症機序の解明を進めてきました。現在、これらの知見に基づき、遺伝子治療を含め、全く新規で真に有効な治療法の開発を目指し、日々研究を進めています。 |
| | | 神経毒性学 酒々井 眞澄 教授 | (1)リスクアセスメント:ナノサイズ粒子の肺傷害性に関する組織学的検証(悪性中皮腫、肺胞上皮および胸膜過形成、炎症)、分子レベルでの機序解析(サイトカイン、がん関連遺伝子)、食品の安全性評価、(2)ドッグディスカバリー:毒性軽減を目指した抗がん物質の分子設計およびインシリコ標的分子解析、構造活性相関(QSAR)、機序解析(転写因子、血管新生)、天然医薬品資源学、軸索損傷治療薬、(3)アニマルモデル:ヒトへの外挿モデルとしての発がん動物試験開発と有用性評価 |
| | | 神経発達・再生医学 澤本 和延 教授 | 中枢神経系の発生・再生のメカニズム解明と再生医療への応用をめざして、成体脳における神経幹細胞の増殖・分化と新生神経細胞の移動・成熟機構を中心に、齧歯類と霊長類、正常動物と疾患モデルを比較しながら研究する |
| | | 認知機能病態学 (寄附講座) 野村 洋 教授 | 記憶・学習や情動の神経メカニズムの解明。特にin vivo神経活動の測定や操作、神経回路の選択的な可視化による脳神経ネットワークの解析。記憶や情動の破綻に関わる神経疾患、精神疾患の病態解明、新規治療法・予防法の開発。 |
| | | 消化器・代謝内科学 片岡 洋望 教授 | 1. 消化器癌の新規診断、治療マーカーの探索、2. 消化管癌に対する光線力学診断法、治療法の開発、3. 炎症性腸疾患の新規薬物療法の開発、4. IgG4関連疾患や自己免疫性膵炎に対する新規診断・治療法の開発、5. 悪性胆道や消化管狭窄に対する金属ステント治療法の確立と力学的観点を含む集学的検討、6. 非アルコール性脂肪肝炎治療法の開発、7. 肝発癌抑制のための治療法の開発、8. ウイルス肝炎におけるウイルス・ヒトゲノム解析、9. 糖尿病・脂質異常症・肥満症・内分泌疾患の病因病態の解明と新規治療標的分子の探索 |
| 生体総合医療学 | 呼吸器・免疫アレルギー内科学 新実 彰男 教授 | ・慢性気道疾患(喘息、慢性咳嗽、COPD、慢性気道感染症)の疫学、疾患概念、遺伝子を含む病態解析、CT画像解析、診断、治療 ・肺癌の分子病態・抗癌剤感受性/反応性・多施設大規模試験 ・呼吸器感染症(非結核性抗酸菌症、肺炎など)の疫学、病態、CT画像解析、診断、治療 ・間質性肺疾患の病態・画像解析と治療 ・呼吸器症状(特に咳)と胃食道逆流症の関連 ・各種膠原病の新規自己抗原分子の同定、臨床検体を用いた病態解析・診断・治療法の開発 | |
| | 循環器内科学 瀬尾 由広 教授 | 1.早期心不全診断アルゴリズムと治療法の開発、2.慢性心不全診療に関する名古屋モデルの開発、3.4次元スペクトルトラッキング心エコー法の開発、4.急性心不全における急性腎障害に関する研究、5.心疾患における腎内循環画像化システムの開発、6.心臓アミロイドーシスの全国調査と新たな診断法の開発、7.心房の組織性状評価法の開発と心房細動治療への応用、8.心房機能と心不全に関する研究、9.冠動脈疾患に関する脂質異常ならびに糖尿病に関する研究、10.心血管連関における中心動脈圧の意義に関する研究 | |
| | | | |

(注) 寄附講座は、設置期間に期限があります。

専門分野研究内容一覧

| 専攻 | 講座名 | 専門分野名 担当教員名 | 研究内容 |
|---------------------|--|---------------------------------|--|
| 生体防御・総合医学専攻 | 生体総合医療学 | 腎臓内科 濱野 高行 教授 | ①慢性腎臓病に伴う合併症、特に腎性貧血、骨ミネラル代謝異常に関する研究、 ②腎臓のサイズに着目した糖尿病性腎臓病とうっ血腎の研究、 ③急性腎障害に関する研究、 ④心腎連関の病態解明に関する研究 |
| | | 神経内科学 松川 則之 教授 | 脳血管障害、神経難病疾患の臨床的病態研究、神経変性疾患のモデル動物作成法の開発、神経難病の遺伝子治療法の開発、記憶と想起のメカニズムの解明、アルツハイマー病と血管性痴呆における分子生物学的発症機序の解明と治療法の開発 |
| | | 地域医療教育学 大原 弘隆 教授 | 教育的な総合診療チームによる教育手法とそのシステムの確立、シミュレーターを用いた教育法の研究。効率的な総合医療教育の確立、地域医療における医療ネットワークの有用性に関する調査、地域医療連携による効果的で効率的な予防医学の確立 |
| | | 麻酔科学・集中治療医学 祖父江 和哉 教授 | 周術期の神経認知機能障害の機序解明、敗血症による中枢神経障害の発症機序解明と治療法の開発、慢性疼痛発症機序の解明と治療法の開発、口腔領域の慢性疼痛の機序解明と治療法の開発、重症患者に対する栄養管理に関する基礎的研究、麻酔・集中治療領域の臨床研究 |
| | | 放射線医学 樋渡 昭雄 教授 | ①種々の画像診断機器を駆使した先端的画像診断研究、②人工知能を応用した放射線医療の構築、③新たな画像下治療(Interventional radiology: IVR)法の開発、④陽子線治療を含む放射線治療の最適化と治療成績向上、⑤放射線生物学に基づく放射線生物学の探求 |
| | | 血液・腫瘍内科学 飯田 真介 教授 | ①造血器腫瘍を中心とした癌の分子病態解析、新規治療標的分子の同定、分子標的薬の効果と毒性を予測するバイオマーカー研究、薬剤耐性化機序の解明とその克服に関する研究、②抗体療法やキメラ抗原受容体導入T細胞(CAR-T)療法を中心とする新たながん免疫療法の開発研究、③がん薬物療法の臨床試験、臨床治験の計画・実施によるエビデンスの創出 |
| | | 臨床薬理学 日比 陽子 教授 | ①抗がん剤治療を行う患者の副作用発現リスクの解析。②抗菌薬の血中濃度測定結果に基づく投与シミュレーションソフトの有効性評価。③泌尿器・腎臓疾患と薬物の関連についての解析と新規治療法の開発。④その他、薬物治療上の問題点をシーズとした臨床研究。 |
| | | 先進急性期医療学 笹野 寛 教授 服部 友紀 教授 | (笹野寛教授)呼吸・循環連携(心拍・血流変動解析、呼吸性動性不整脈の生理)、臨床デバイスの開発(超音波ガイド下穿刺法、酸素投与方法)、末梢静脈挿入型中心静脈カテーテル、医学シミュレーション教育(服部友紀教授)敗血症における免疫異常と骨髄移植による免疫機能再生効果に関する研究、敗血症性ショック患者に対するPMX-DHP+HDFの治療効果 |
| | | 救命救急医療学 松嶋 麻子 教授 | 高齢化社会における敗血症に関する臨床研究、院内感染予防と対策に関する臨床研究 重症外傷および救急搬送に関する臨床研究 減災・医療に関する研究 救急医療とヘルスケアアートに関する研究 |
| | | 予防・社会医学専攻 | 医学教育・社会医学 |
| 公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授 | がんやメタボリックシンドロームなどの生活習慣病・健康・QOL・総死亡などに関連する要因(生活習慣、生育歴、心理社会的要因、遺伝子多型など、要因間の交互作用も含む)の種々の疫学研究による探索と評価、診断・検査法の評価と比較、臨床疫学、難病の記述疫学 | | |
| 法医学 青木 康博 教授 | DNA多型・法医遺伝学、画像解析技術の法病理学的・法医人類学的応用 | | |
| 医学・医療教育学 高桑 修 教授 | 多施設参加型教育システムの開発、効果的なFaculty developmentの開発、新しい多職種連携教育の開発と有効性の評価 | | |
| 次世代医療開発学 神谷 武 教授 | ①機能性消化管疾患の病態、疫学および新規治療法に関する研究 ②臨床研究方法・教育論と治療評価方に関する研究 ③内臓知覚に関する基礎的研究 ④消化器・循環器疾患における大規模データベース研究 ⑤心不全の病態解明と治療開発 ⑥数理モデルやシミュレーションを活用した新興感染症に関する研究 ⑦肺炎およびARDSの予防・治療に関する国際共同研究 | | |

新型コロナウイルス感染症の状況により、今後、入学者選抜期日及び方法が変更される場合がありますので、本学ウェブサイト「大学院入試に関するお知らせ」のページを随時ご確認ください。
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/information/index.html>

